

愛される学校づくり

<感謝の心>

- ・子ども
- ・保護者 PTA
- ・地域・教職員

学 校 教 育 目 標

自分を信じ 夢に向かって
たくましく挑戦する子
～ふるさと山階なかまと共に～

一人一人を大切に

する教育

<自分力>

- ・自分をみがく
- ・個のよさをひきだす

- | | |
|----------------|----------------------|
| * 自分を信じ | 信じることのできる「自分」になろう |
| * 夢に向かって | 生きる原動力「夢」をもとう |
| * たくましく挑戦する | 失敗をおそれず「挑戦」し続けよう |
| * ふるさと山階なかまと共に | ふるさと山階のよさを仲間と共に発見しよう |

めざす子ども像

元気に登校

笑顔で下校

学びを楽しみ深める子

まわりの人やものごと
に目を向け、
優しくかかわる子

自他の体と心を
大切にする子

めざす教職員像

チーム山階

日々成長し続けるプロとしての教職員集団

- 1 子どもと真剣に向き合う教職員〈子どもの命を守り、育む〉
- 2 保護者・地域から信頼される教職員〈開かれた学校づくり〉
- 3 教育のプロとして 自己を磨き続けられる教職員
〈教職員は学校現場で育つ 真のワーク・ライフ・バランスの視点〉

研 究 主 題

心豊かにいきいきと 確かな自分を 表現する子ども
～主体的に学びをつくり、互いに高め合う姿をめざして～

学校運営協議会 あいあい山階 (平成17年9月発足)

「出会い」 「ふれあい」 「支えあい」

令和3年度 重視する視点

京都市立山階小学校

「生きる力」をはぐくむ取組 ～知・徳・体の調和のとれた育成～

学習指導要領で育成を目指す『資質・能力の三つの柱』

学びに向かう力、人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

知：確かな学力

徳：豊かな心

体：健やかな体

何を理解しているか。
何ができるか。

知識及び技能

理解していること・できるこ
とをどう使うか

思考力・判断力・表現力

1 『確かな学力』の育成

〈学力向上へ向けて〉

- 「すべての児童の可能性を最大限に伸ばす」教育の実践。
- 主体的・対話的で深い学びを重視した授業を通して学びの質を高める。
 - ・意欲的に学ぶ集団づくり
 - ・自ら課題や疑問を設定し、調べ解決しようとする過程を大切にした探究活動の推進
- 家庭学習の習慣化を図る。
 - ・家庭と連携し、授業と連動させながら、予習・復習の毎日の家庭学習を積み重ねる。
- 小中一貫教育の推進により、9年間を見通した指導の充実を図る。

〈言語活動の充実〉

- 国語科において、言葉の果たす役割を理解するとともに、論理的に思考し、表現する語彙能力を培う。
- 互いの立場や考えを尊重して伝え合う能力を培う。
- 古典をはじめ、我が国の言語文化に触れて、感性や情緒を育む。
- 記録・要約・説明・論述・討論等の言語活動。
- 読書活動の推進。
 - ・全校読書の一層の推進（読書ノートの活用と100冊読書への指導）、古

典の日 伝統的な文化（百人一首）。読書ボランティアとの連携・協力（読み聞かせ・図書館整備等）、学校図書館の環境整備（学校司書との連携）

〈LD等支援の必要な子どもを中核に据えた総合育成支援教育の充実〉

- 児童の特性を正しく理解して、一人一人が認められる中で、規律ある生活の確立、学びの集団づくり、個や教科の特性に応じたきめ細やかな支援に基づく学力向上の取組を進める。

〈実践的英語力の育成〉

- 実際に英語を用いてお互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を通してコミュニケーションを図る素地・基礎となる資質・能力を目指す。

〈GIGA スクール構想の下での取組の推進〉

- 児童の発達段階に応じて、ICT 機器等を日常的・積極的・効果的に活用する。
- これまでの教育実践と ICT 活用を適切に組合せ、教育効果を高める。

2 『豊かな心』の育成

〈生徒指導の三機能を生かした取組〉

- 一人ひとりの児童の自己指導能力の育成（その時、その場で、どのような行動をとることが適切であるか、自分で判断して行動する力）。
- いじめの防止 指導の徹底。

〈豊かな感性・情操をはぐくむ教育の充実〉

- 「人・もの・こと」との関わりを通して、豊かな心をはぐくむ
- 多様性を理解して関わるができるようにする。
- 伝統文化体験等を通じて、自らも伝統と文化を受け継いでいく担い手であることを実感できる取組の充実。
- 芸術の楽しさや美しさ、その良さを味わう活動を充実させ、創造性と豊かな情操を培う。

〈道徳教育の充実〉

- 「しなやかな道徳教育」の実践の推進。
- 体験活動、各教科・領域との関連を図り、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習など多様な実践活動を生かす。

3 『健やかな体』の育成

〈体力の向上〉

- 偏りのある体力実態の改善。
- 体育学習の充実⇒京都市スタンダードをもとに計画的な学習指導
- 遊びの推奨⇒情緒面や知的な発達につながる。
 - ・休み時間や放課後を活用した児童が楽しみながら運動に触れる機会を積極的に設ける。
 - ・学級遊びなどを取り入れ、運動の苦手な児童も楽しく運動に親しめるようにする。

〈保健教育の充実〉

- 生活点検週間の取組等を通して、家庭との連携強化。

- ・食事、運動、休養、睡眠の調和のとれた生活習慣を身に付ける。
- 飲酒・喫煙・薬物に関する指導の徹底。
⇒薬物乱用防止教室
- 新型コロナウイルス等の感染症をはじめとする病気や怪我に対して、その原因や予防策を正しく理解し、自ら判断してリスク回避の行動がとれるよう意識を高め実践的態度を育てる。

〈安全教育の充実〉

- 「生活安全」「交通安全」「災害安全」の3つの領域について計画的に指導を行う。
- 「危機管理マニュアル」を更新し、絶えず災害等が起こった時をイメージして、的確に行動できる体制づくりを進める。
- 避難訓練の充実。
- 児童が自ら考え安全な行動がとれるよう、安全指導を工夫する。

〈食に関する指導の推進〉

- 学校給食を「生きた教材」として食に関する指導を推進する。
- 食物アレルギーのある児童の学校生活を安心安全なものにするため、正しい知識に基づいた適切な対応がとれるよう校内組織、関係機関との連携を進める。

4 地域ぐるみの教育の推進～ふるさと山階なかまと共に

- あいあい山階（学校運営協議会）を核に、学校と家庭・地域が相互に高めあう双方向の信頼関係を構築し、地域ぐるみの教育の充実を図る。
- 開かれた学校（学校評価システムの実施と活用）、授業参観・参画の工夫。
- 学校と家庭・地域の方々（地域の先輩）との連携・協力。
・生活科、総合的な学習の時間、スポーツ・文化活動などへ支援（ゲストティーチャー、ボランティアの参画）

5 働き方改革の推進と学校教育の充実

- 業務の精選を進め、時間を効率よく使う。
- 超過勤務を月45時間以内にするよう、教職員一人ひとりがそれぞれに合った工夫を進める。また、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点も含め、学校に滞在する時間の削減に取り組み、同室の密集を避ける。
- 放課後の時間を充実させ、教材研究や翌日の準備、教職員のコミュニケーションなどに活用することにより、児童の力を高める。